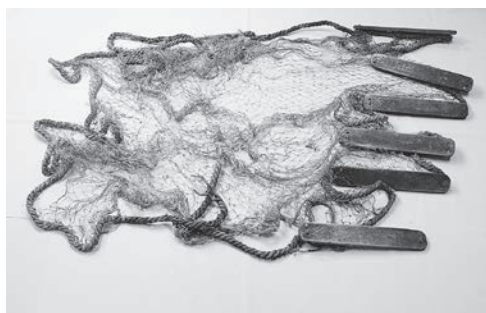


# 教育委員会だより

歴史文化基本構想の調査で  
ニシン漁で使った網とアバを発見！



アバなどを確認する会田学芸員(右)



ニシン漁で使った刺網



墨書きされたアバ「鯨大漁」と確認できる

歴史文化基本構想の民俗調査で、字中須田在住の京谷作右衛門さんの倉庫を訪問しました。

調査は、北海道博物館の会田理人学芸員が行い、明治時代にニシン漁で使った刺網とアバ(浮き)が発見されました。

京谷さんは、「昔の人は、自宅付近から舟で天の川を

下って、海で漁を行っていた」と話していました。アバには、「鯨大漁」や「明治二十七年」などと墨書きがありました。

これらは、かつてのニシン漁の繁栄を物語る貴重な資料であることから、4月22日にオープンする旧笹浪家住宅で展示する予定です。

文化財速報

上ノ国町の昔の気候を復元！

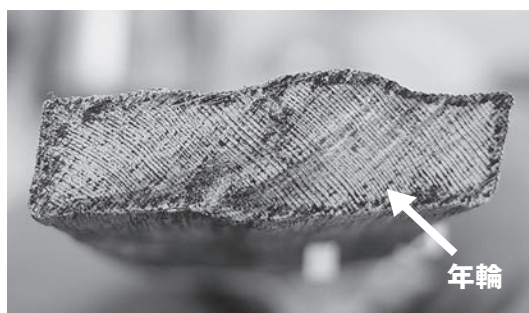


調査をする箱崎先生

2月8～10日に千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館の箱崎真隆特任助教が木の年輪の酸素同位体分析のため、上之国館調査整備センターを訪れました。

木の年輪の酸素同位体の割合は、空気中の水分の影響を受けて決まります。そ

の年輪の酸素同位体の割合のパターンは、過去の降水量の変化に反映されます。そのため、箱崎先生は「年輪の酸素同位体の割合を分析することで、勝山館の時代の気候(温度や降水量)の変動を知ることができる。」と話していました。今回は、勝山館跡の出土品を中心に20点ほどのサンプルを取りました。結果については、わかり次第みなさんにご報告したいと思



年輪を分析することで気候の把握が可能

## 第17回連続歴史講座 参加無料 ふるさとの歴史を読み解く

### 講座2「勝山館跡の生産関連遺物からわかること」

- ・日時：3月11日(土) 13時30分～
- ・講師：独立行政法人国立科学博物館  
理工学研究部 科学技術史グループ  
研究員 沓名貴彦氏

勝山館出土の金属生産遺物への科学調査からみえてきたことを、本州などの事例と比較しながら紹介します。

### 講座3「勝山館跡の使われ方」

- ・日時：3月11日(土) 15時00分～
- ・講師：教育委員会 主幹 塚田 直哉  
勝山館跡の遺物と最近の取り組みについて紹介します。

●会場：いずれもジョイ・じょぐら

●お問い合わせ：

上ノ国町教育委員会 文化財グループ

電話 55-2230

